

真鶴町貴船神社のマナズルザクラ[※]同定顛末記おおにし わたる
大西 亘(学芸員)

真鶴町の貴船神社境内に、「マナズルザクラ *Pururus incisus* Thunb. var. *manadzuruensis* T.Kawasaki」が生育しています(図1)。毎年3月下旬から4月はじめくらいに小ぶりの花を咲かせ、咲き始めは白く、時間が経つにつれて紅色になって散る、味わいのある桜です(図2)。「マナズルザクラ」は、1961年にサクラ研究者の川崎哲也氏によって貴船神社境内にあった株を元に新変種として記載されました(川崎, 1961)。記載論文では、「半島内のところどころにも見られる」とあり、真鶴半島ならではの生育状況が見られるサクラとして地名を冠して発表することが伺えます。しかし近年では、「マナズルザクラの原木らしい」と伝えられたサクラが貴船神社に生育するものの、60年以上前の記載論文で「大木」とされたような大きさではなく、その信ぴょう性に疑義があったり、半島内の他の場所では発表以降に見つかっていない等、マナズルザクラの現状について、はっきりとした結論が得られないままでした。加えて、マナズルザクラがその形態的特徴に基づいて記載されたにもかかわらず、実際に貴船神社に生育する個体を観察すると、識別点の一つとされる毛の量に変化がある等、しばしば実物の観察結果と記載内容との不一致が見られ、はっきりとマナズルザクラと言い切れない事情もありました。実は筆者も10年ほど前に、当時町の教育委員会に



図1. 開花期のマナズルザクラ。2024年4月1日、真鶴町貴船神社, 大矢伸江氏撮影。

勤めていた知人から「貴船神社のマナズルザクラを町の天然記念物にできないか?」と相談され、まずは正確な識別の必要性を覚えて、記載論文を片手に注意深く観察したのですが、参照した識別形質に変異が大きく、正確な同定が必要だが、形態のみでの同定は難しいとの回答をしたことがありました。

サクラの仲間は外見での識別が難しい

もとより、マナズルザクラに限らず、サクラの仲間は、異なるサクラどうしても容易に掛け合わさって雑種を作りやすい性質を持ち、雑種では親とは異なる見た目が生じることもしばしばです。その特性を活用して、江戸時代以降には人為的な交配や選抜による品種改良も盛んに行われてきました。結果として多くの類似した品種が存在し、形態での識別はたびたび専門家を悩ませてきました。2011年に森林総合研究所等が、精度の高いDNAマーカーによるサクラ品種の識別法を開発し、多くの栽培系統の遺伝的背景を明らかにしたことで、これまで形態的には分からなかった様々な事実が明らかになり、ようやく実用的な識別への道筋が開かれました(森林総合研究所, 2011)。

マナズルザクラをどう識別するか

さて、以前一旦は諦めていたマナズルザクラの識別でしたが、2023年3月の真鶴町議会において、マナズルザクラに関する質問がなされたことをきっかけに、真鶴町から筆者へマナズルザクラの現状と鑑定についての相談がありました。相談の結果、貴船神社と、複数の植物園や栽培施設の協力を得て、貴船神社のマナズルザクラと‘真鶴桜’[※]とされる各地の栽培系統のサンプルを入手し、当時森林総合研究所が実施していたDNAによるサクラのクローン鑑定を依頼することで、貴船神社のマナズルザクラのDNA型と形態の比較確認を実施することとしました。

具体的には、貴船神社のマナズルザクラに加え、全国3か所で栽培されている

‘真鶴桜’(サンプルA、B、C)について、葉サンプルの提供を受け、森林総合研究所にDNA型によるクローン鑑定を依頼しました。あわせて、DNA型鑑定を実施したそれぞれのサクラの木から花と葉の標本の提供も受け、マナズルザクラの記載論文に照らして、それらの標本による形態比較を行いました。提供を受けた‘真鶴桜’のうち、サンプルAは川崎氏がマナズルザクラから株分けした株由来の来歴を持つ木から採取されたもので、川崎氏の記載したマナズルザクラと同一のクローンであり、貴船神社のものとはDNA型でも形態的にも一致が見られることが期待されるものでした。

マナズルザクラを再確認

調査の結果、DNA型については、貴船神社のものと同様に川崎氏が株分けした来歴のあるサンプルA、そしてサンプルBが完全に一致し、同一のクローンであることがわかりました。一方、サンプルCはこれらとは異なる遺伝子型で異なるクローンであることがわかりました。また、花の標本の形態比較については、いずれの産地の標本も多少の変異があるものの、貴船神社のもの(図3)と、サンプルA、サンプルBは、いずれも記載論文に示される、「花の柄から“がく”までの表面に毛がまばらにあるか、ほとんどない」特徴が見られたのに対し、サンプルCは同じ部位に毛が密生し、記載論文に示される識別点とは異なる特徴が見られました。以上の結果から、真鶴貴船神社のマナズルザクラは、川崎氏が記載した株に由来するサンプルAと同一のクローンであり、記載論文に示された形態的特徴も変異の幅はあるもののサンプルAと一致し、「マナズルザクラ」と同定されました。一方、比較したサンプルのうち、サンプルCはDNA型において、川崎氏の記載した「マナズルザクラ」とは異なるクローンであり、形態においても「マナズルザクラ」の記載論文と異なる特徴が見られたことから、一般に‘真鶴桜’[※]とされる栽培系統の中には、マナズルザクラとは異なるクローンも含まれていることがわかり



図2. 咲き始めは白く、時間が経つにつれて紅色になるマナズルザクラ。2024年4月1日，真鶴町貴船神社，大西 亘撮影。



図3. 真鶴町貴船神社のマナズルザクラの花の標本(KPM-NA0308338)。

ました。サクラ品種のDNA型を詳細に調べた場合に、複数のクローンが含まれていることは、他にも例のあることですが(森林総合研究所, 2011)、それらの保全や植栽に当たっては異なるクローンの識別なしに混在させることは適切ではありません。特に、対象が野生由来のクローン系統である場合は遺伝子汚染が生じないように配慮が必要です。真鶴町のマナズルザクラはまさにその例に該当し、貴船神社のマナズルザクラを同定できただけでなく、真鶴町には持ち込むべきではない‘真鶴桜’の存在が判明したことも副次的な成果でした。真鶴町貴船神社のマナズルザクラの生育が再確認されたことで、今後地域での保全や活用に繋がるのが期待されます。

なお、今回実施した内容の詳細は、真鶴町より「真鶴貴船神社境内に生育するマナズルザクラについての調査報告書」として公表されています(真鶴町, 2025a, b)。また、調査で集められた標本は、真鶴町より寄贈を受け、当館の植物標本として収蔵されています。

今回、真鶴町貴船神社に産するマナズルザクラを再確認することができましたが、実は川崎氏が真鶴町や真鶴半島付近を産地として記載したサクラは他にも知られています。ミズタマザクラ、ベニズルザクラ、アメダマザクラ、アサツユザクラなどがそうです(川崎, 1959., 1961)。

これらの一部は森林総合研究所多摩森林科学園のサクラ保存林で見ることができます(森林総合研究所多摩森林科学園, 2020)。しかし、真鶴町貴船神社のマナズルザクラを除き、川崎氏が記載したいずれのサクラも現在真鶴町、真鶴半島付近での生育状況は不明です。近隣地域では、サクラに深刻な被害をもたらす外来種クビアカツヤカミキリの分布拡大といった課題もありますが、今後、様々なサクラの原産地としての地域の魅力に目を向けることがあってもよいかもしれません。

マナズルザクラの同定の取組み、また本稿の執筆に当たっては、真鶴町の関係者のみなさん、‘真鶴桜’のサンプル提供に快くご協力くださった各地の施設、森林総合研究所のご関係の方々など多くの方にご尽力いただきました。中でも初めにマナズルザクラの相談を持ち掛けて下さった故・岩本幹彦氏の情熱無くしては、今回の成果に至ることは難しかった

※ 文中では、真鶴町貴船神社に生育する川崎哲也氏の記載の元となったと伝わるサクラを「マナズルザクラ」、各地の栽培系統を「‘真鶴桜’」と総称した。

なお、「マナズルザクラ」は川崎氏により記載論文において命名された和名であり、「マナズルザクラ」ではないことを付記しておく。

でしょう。ここに記して深く感謝申し上げます。

引用文献

- 川崎哲也, 1959. 真鶴産サクラ類 (1). 植物研究雑誌. 34(11): 44-51.
- 川崎哲也, 1961. 真鶴産サクラ類 (2). 植物研究雑誌. 36(5): 46-57.
- 森林総合研究所, 2011. 国内初！遺伝子情報を利用したサクラ栽培品種の網羅的識別技術を開発—染井吉野など伝統的栽培品種の実態を明らかに—. 独立行政法人森林総合研究所プレスリリース. <https://www.ffpri.go.jp/press/2011/20110308documents/20110308.pdf> (2026年1月21日閲覧)
- 森林総合研究所多摩森林科学園, 2020. 桜の新しい系統保全—形質・遺伝子・病害研究に基づく取組—. 44p. <https://www.ffpri.go.jp/pubs/chukiseika/3rd-chuukiseika5.html> (2026年1月21日閲覧)
- 真鶴町, 2025a. 真鶴貴船神社境内に生育するマナズルザクラについての調査報告書.
- 真鶴町, 2025b. 真鶴桜の同定調査結果について(上記報告書PDFファイルもリンク先から見られます.) <https://www.town.manazuru.kanagawa.jp/soshiki/seisakusuishin/seisakusuishin/3616.html> (2026年1月21日閲覧)